

平成 25 年度 推薦入試試験問題（生活科学科 食物栄養専攻）解答例

問 1 （40 点）

【解答のポイント】

- ・生産者自身が、他人に任せないで自分たちで食育に取り組むべきである。
- ・日本の食育は企業がリードしているものが多い。
- ・「弁当の日」などを通じて、子どもの食に対する意識を変えることができる。
- ・日本語として正しい表記がなされているか。

【解答例】

今日の日本の食育は、加工食品会社やファストフードチェーン店等、多額の宣伝費を捻出できる企業がリードし、テレビなどのマスメディアを利用し、自社商品を買わせんがためのものになっている。人々はそのような宣伝に乗せられてしまう可能性がある。

これに対して、「本当の食育」の強化の重要性を指摘し、生産者自身が他人に任せないで自分たちで真剣に取り組むべきだと言う。子ども自身が昼食の弁当を作る「弁当の日」では、食事づくりの手間、愛情を実感し、食に対する意識が変わってきているなどの事例がある。

このように、生産者や産地は、その独特の食育の方法論を活用すべきであると主張している。

(284 字)

問 2 （60 点）

【解答のポイント】

- ・日本語として正しい表記がなされているか。
- ・筆者の主張にある生産者の産地による食育について書かれているか。

【解答例】

今日の日本の食生活においては、栄養の偏り、不規則な食事、肥満や生活習慣病の増加、過度のやせ志向、「食」の安全の問題、食料自給率の低下などの問題が存在する。また、「食」情報のはん濫は、食生活とその安全に大き

な影響を与えている。一方、特徴ある地域の風土や農林漁業に根ざした食文化が失われつつある。

このような「食」をめぐる環境変化に対して、自ら「食」のあり方について学び、考える力を身につけるために「食育」の推進が行われてきている。特に、家庭、学校、保育所、地域等、食生活に密着した現場から、「食育」の推進に取り組んでいくことが大切である。

子どもたちを対象とする「食育」は、心身の成長と人格の形成に大きな影響を与え、健全な心身と豊かな人間性をはぐくむ基礎となる。

生産者や家庭との交流を通じた体験授業や地場産食品を用いた実習、給食等を通して、実践的に学ぶことで、「食」の実際に触れることができる。これらを通じ、「食」に関する正しい知識を身につけ、健全な食生活を実践することができるようにする必要がある。

(446 字)